



 公益財団法人 井植記念会

Since 1969

ご案内

Invitation To Iue Memorial Foundation

公益財団法人 井植記念会

理事長

井植貞雄

ごあいさつ



井植記念会は、三洋電機株式会社の創業者である故井植歳男が、淡路島の東浦町に公民館を建て、青少年教育、郷土の社会教育の発展につくすため、昭和37年（1962）8月に設立した「財団法人井植愛郷会」が前身となっております。

井植歳男は、昭和44年（1969）7月に66歳でこの世を去りましたが、同年11月に、故人の遺財の中から10億円を基本財産として、名称を「財団法人井植記念会」と改めました。

当会は、文化振興、奨学金制度、社会福祉、国際交流、地域社会活動などの多彩な社会事業を展開していますが、「井植記念館」はそうした事業展開の拠点として、淡路島や明石海峡大橋を一望できる神戸市垂水区塩屋のジェームス山山頂に、昭和45年（1970）に建設されました。

広大な芝生の庭園に鉄筋コンクリート造りの建物が、シンプルなかにも潇洒なたたずまいをみせ、館内には、井植歳男記念室、ホール、ロビー、談話室、事務所などの施設があります。記念室には井植敏歳男の足跡や系譜、記念品などを展示していますので、お気軽にお立ち寄りください。

なお、公益法人制度改革に則って、平成23年4月1日より「公益財団法人井植記念会」として活動いたしております。

※事業活動の詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.iuekinenkai.or.jp>

創業者の残した言葉より

ゼロから出発する
私は、いつもゼロやマイナスから出発して、新しいものをつくる立場におかれてきた。
だから、少しくらい困難にぶつかっても、くじけない。
私は、無である。ハダカである。知恵も、財産も、信用もない。
この心境に立つて考えれば、おのずと活路が開けてくる。

ライバルは
お客のこころである
三洋電機20年の歩みは、たえず先手を打ち、お客の心をとらえた企業が、いかに強いということを示しているのではない。
真の競争相手は先輩同業メーカーではなく、日々これ大衆に、いかに受け入れられるか、その戦いに勝つものだけが、発展を約束されるのだ。

事業のご紹介

顕彰事業

●井植文化賞

井植文化賞は文化振興事業の一つとして昭和48年（1973）にスタートしました。文化芸術、科学技術、社会福祉、地域活動、報道出版、国際交流の6部門において、めざましく活躍された個人または団体を、慎重かつ厳正な審議により選出し、毎年10月に表彰を行います。



井植文化賞表彰



奨学金事業

●英才育成奨学金

わが国の学術水準の向上と社会の進歩発展に著しく貢献し得る人材の育成を図るため、昭和46年（1971）から、理学・工学・医学系及び、それらに準じる研究科の大学院博士課程の学生に対して、学資金（奨学金）の給付を行っております。

その他事業

●高齢者支援事業

●社会福祉事業

困難にあわなない人生はない

私は、何事もやればできるという自信を持っている。

若い諸君は、いろんな困難に遭遇するだろう。しかし、自信を失ってはならない。

その困難を乗り越えていく、打ち勝っていく、それが、成否の分かれ道だ。

困難にあわなない人生はあり得ない。もしあるとすれば、それは怠けている証拠である。

文化事業

●垂水文化講座

地域の生活文化の向上並びに生涯学習の一層の充実を図るため、平成7年(1995)に第1期垂水文化講座を開講しました。毎年2月に受講者(定員150名)を募集し、年間10回の講座を開催しています。



●井植記念館コンサート

美しい自然に囲まれた開放的な井植記念館ホールにて、平成4年(1992)より、年2回の音楽コンサートを開催しています。



淡路会議

●アジア太平洋フォーラム・淡路会議

新たなアジア太平洋のビジョンを明らかにし、その実現に向け政策提言を行うことを目的に、毎年新たなテーマを設けて国際シンポジウム・フォーラムを開催しています。

●アジア太平洋研究賞(井植記念賞)

若手研究者による、アジア太平洋地域に関する調査・研究を奨励するため、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文の著者(日本人及び留学生)を顕彰しています。

※詳しくは「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」のホームページをご覧ください。
<http://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

自分の足跡を残す

与えられた仕事を、命じられたままトレースするのではなく、自分の持つ知識、技術、アイデア等々、何かをプラスしてみよ。先人の歩んだ足跡よりも、大きなものを残す気概、それが大切だ。

水は低きに流れる
水は、低きに向かって流れるのが道理である。
しかし、当事者として仕事に没頭していると、枝葉末節に気をとられ、道理や本質を見失うことが多いものだ。
何事も本質を見きわめ、合理的に考えよ。

創業者

井植歳男



三洋電機の創業者「井植歳男」は、第2次世界大戦の戦前、戦中を通じた30年間、義兄であった松下幸之助氏を支えて、松下電器産業の創設とその後の発展につくし、日本が連合軍に無条件降伏したことによって余儀なくされた「公職追放」を受けて自ら松下電器を退職した後に、裸一貫、しかも借金を背負って、極端な物不足と凄まじいインフレの真っ只中に三洋電機を興しました。

事業を愛し、郷土を愛し、人を愛し、また無限の夢を抱き、次々にその夢を実現していった「井植歳男」の足跡をご紹介します。

井植歳男創業者の足跡

明治 35 年 (1902) 12 月 28 日	父清太郎、母こまつの長男として兵庫県津名郡東浦町(現淡路市)に生まれる
大正 6 年 (1917) 6 月	松下幸之助氏のもとでソケット造りを始める
大正 7 年 (1918) ~ 9 年	西野田工業専修学校の夜学で製図、設計を学ぶ
大正 9 年 (1919)	東京方面の販路開拓のため、単身で東京へ駐在
大正 12 年 (1923) 9 月 1 日	関東大震災に遭遇
大正 12 年 (1923) 暮れ	入宮
大正 15 年 (1926) 1 月	除隊し松下電器に復職
昭和 2 年 (1927) 10 月	結婚
昭和 10 年 (1935) 12 月	松下電器産業株式会社の設立とともに専務取締役となる
昭和 17 年 (1942) 4 月	松下無線の社長、松下金属の副社長、松下乾電池、松下電動機の各専務取締役などを兼務 松下造船の社長を兼務、軍の命令で木造船を造る
昭和 20 年 (1945) 8 月 15 日	松下電器本社で終戦を迎える
昭和 21 年 (1946) 12 月	松下電器と関連会社の役員を全て辞任
昭和 22 年 (1947) 1 月	個人経営で三洋電機製作所を創設
昭和 22 年 (1947) 7 月	自転車用発電ランプ 47 型の第 1 号機発売
昭和 25 年 (1950) 4 月 1 日	三洋電機株式会社を設立、社長に就任
昭和 27 年 (1952) 3 月	日本で初めてのプラスチックラジオを発売
昭和 28 年 (1953) 8 月	日本で初めての噴流式洗濯機を開発。我が国に家庭電化の元年をもたらす
昭和 36 年 (1961) 10 月	関西の若手財界人によって、社長学の研修会「井植学校」が始まる
昭和 37 年 (1962) 5 月	藍綬褒章受章
昭和 37 年 (1962) 8 月	財団法人井植愛郷会設立(当財団の前身)
昭和 43 年 (1968) 1 月	三洋電機株式会社取締役会長に就任
昭和 44 年 (1969) 7 月 16 日	逝去、正四位勲二等瑞宝章追贈



▲淡路島、明石海峡大橋が望めます。



▲芝生の庭園にたたずむ井植記念館



▲元兵庫県知事 金井元彦氏 揮毫



▲談話室

井植記念館

井植記念館はジェームス山山頂に位置しており、その広大な芝生の庭園からの眺めは、眼下には遮る物がなく、海に向かって大阪湾を一望できます。東の方から、関西空港、泉南地域の湾岸風景、大阪府と和歌山県の県境、紀淡海峡（友が島）、淡路島（洲本方面、淡路 SA）、明石海峡大橋。西の方向には、小豆島が見えます。また、西から北に向かって垂水区の街並みが、ほぼ 360 度見渡すことができます。



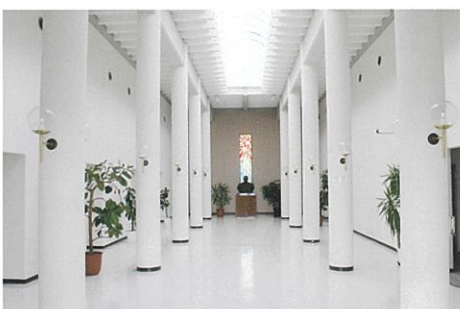
▲ホール

文化講座やコンサートを開催しています。



▲井植歳男記念室

井植歳男の系譜や足跡を辿る記念品を展示。

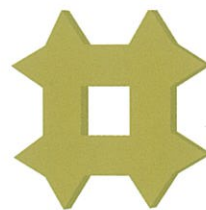
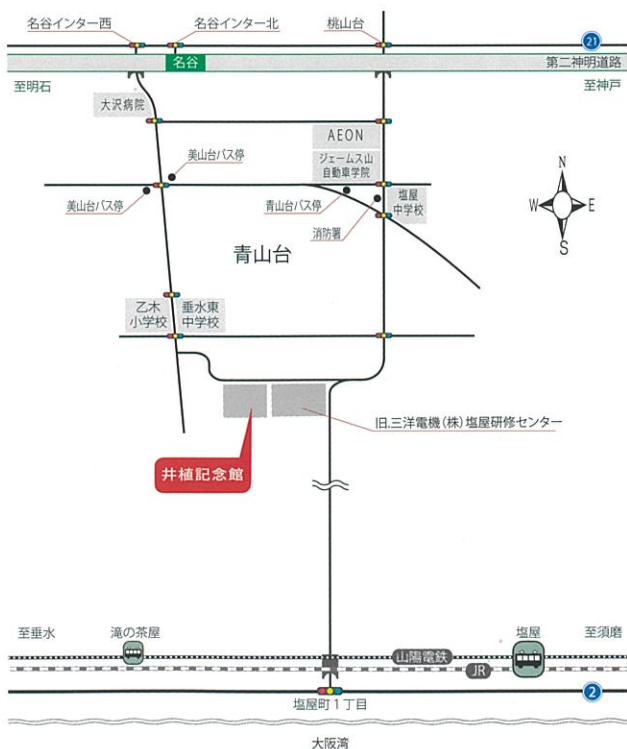


▲中央ロビー

ヨーロッパの宮殿を思わせる柱、天井のガラス窓からは柔らかな太陽光が注ぐ。白い空間の奥に、富永直樹先生（平成元年度文化勲章受章）の井植歳男創業者の彫像作品がおかれています。



▲記念館のシンボル 井植歳男の彫像



公益財団法人 井植記念会

〒 655-0873 兵庫県神戸市垂水区青山台 1 丁目 2 1-1

TEL (078)751-5216

FAX (078)751-7696

URL <http://www.iuekinenkai.or.jp>

井植記念館

開館時間 AM9:00 ~ PM4:30

休館日 土・日・祝日、夏期・年末年始、5月連休

交通

JR 神戸線垂水駅・山陽電鉄垂水駅より車で約 10 分
または、山陽バス 23 系統つつじが丘行き
美山台バス停より徒歩約 10 分